

第5回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議の概要

【第6回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議資料】

第5回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議の開催概要

- 日時：平成30年2月1日(木)午後2時から午後4時まで
- 場所：本町分庁舎(漁信基ビル) 702会議室
- 議事：(1)第4回有識者会議の概要について
(2)震災の記憶・教訓の伝承について
(3)震災の記憶・教訓の伝承に向けた連携・ネットワークについて
(4)ネットワークを運営する組織と課題について
(5)その他

○委員名簿

座長	今村 文彦	東北大学災害科学国際研究所所長・教授
委員	阿部 重樹	東北学院大学経済学部共生社会経済学科教授
//	石塚 直樹	一般社団法人みやぎ連携復興センター代表理事
//	臼井 弘	気仙沼市自主防災組織連絡協議会会長
//	太田 倫子	公益社団法人こどもみらい研究所代表理事
//	小田 隆史	宮城教育大学附属防災教育未来づくり総合研究センター准教授
//	武田 真一	河北新報社防災・教育室長
//	塚原 大介	みやぎ観光復興支援センターセンター長【欠席】
//	宮下 加奈	一般社団法人減災・復興支援機構専務理事【欠席】
//	宮原 育子	宮城学院女子大学現代ビジネス学部学部長・教授

第4回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議の主な御意見

(2) 震災の記憶・教訓の伝承について

① 震災の記憶・教訓の伝承の理念について

【啓発の考え方】

○ 県民運動を起こそうという観点からは、イベントや顕彰を含め、意識を共有しながら高めていくものすべてを「啓発」として取り組んでもいい。【武田委員】

○ 「啓発」という言葉の使い方に関し、一緒にやっ払いこうというような感じで、減災文化の醸成と一緒にやっ払い醸し出していこうということになる。【小田委員】

② 「誰に」伝承するのか

【宮城県民・宮城県以外に住む人】

○ 県職員も含めた自治体の人達に伝承していくというのもきちんと入れておいた方がいい。

【宮原委員】

○ 宮城県内の自治体だけではなく、県外も県内も包含できて、独立した形にならないか。

【武田委員】

第4回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議の主な御意見

(2)震災の記憶・教訓の伝承について

③「何を」伝承するのか

【記憶・経験】

○在日外国人の方々の体験・経験も伝承の中ではっきり示しておくことも大事。【阿部委員】

【記憶・経験】

○東日本大震災以前の岩手・宮城内陸地震といった災害等の経験や教訓等を改めて掘り起こすような活動をしている方々等もいるので、過去の災害からの教訓や経験等も同時に伝えていくべき。【小田委員】

○「災害・震災からの復興の記憶や経験」というより、復興の経験や教訓という方がしっくりくる。【石塚委員】

④「どのように」伝承するのか

【様々な取組】

○地域活動の実践のような、もう少し積極的な想いの表現の方が受け止め方も違うのではないかと。体験よりも実践できる仕組みを作るといった形はどうか。【臼井委員】

(3) 震災の記憶・教訓の伝承に向けた連携・ネットワークについて

【震災遺構・伝承施設のネットワーク化】

○民間施設が追加されているが、設備・施設を持っている企業もあるので、「企業・民間施設」としてはどうか。【武田委員】

【アーカイブの連携・ネットワーク化】

○企業で記録誌や映像をまとめているところもある。施設と同様に、「企業・民間施設」としてはどうか。【武田委員】

(4) ネットワークを運営する組織と課題について

① ネットワークを運営する組織の必要性

【取組主体の連携・ネットワーク化】

○3つのネットワークのうち、宮城の特異性として、伝承の主体なり、県民なりを基軸に、アーカイブや震災遺構に広げていくストーリーが描けるのではないか。【石塚委員】

○3つの要素を横串入れている青い矢印の横串を刺していく一つの拠点として、神戸の人と防災未来センターのような、ある程度のボリュームを持った機関が必要。【宮原委員】

第4回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議の主な御意見

(4) ネットワークを運営する組織と課題について

② ネットワークを運営する組織の機能と課題

【組織に求められる機能】

○組織には県民が参画する形での取組が一番の基本ではないかと思う。【臼井委員】

○既存のものをどのように有効利用し、コーディネートするかが求められている。【武田委員】

○アーカイブの分析・活用には、データベースの構築まで入るべき。【武田委員】

○顕彰制度のような、伝承機運・防災機運を盛り上げるような仕組みづくりが必要である。
【武田委員】

○活動主体が交流・情報交換・作業ができる物理的な拠点と相談できるスタッフが必要。
【小田委員】

○技術的な相談等、ソフト部分の様々な知見を1カ所に集めておかないと散逸してしまう。
【宮原委員】

○将来、出てきた貴重な記録の寄附の申し出の受け入れ先が重要である。【宮原委員】

(4) ネットワークを運営する組織と課題について

② ネットワークを運営する組織の機能と課題

【組織に求められる機能】

○伝承だけではなく、地域課題等の周辺領域の役割についてどうとらえるのかが重要である。伝承というシングルタスクだけでいいのか、マルチタスクとするのか、検討が必要である。

【石塚委員】

○組織のイメージを固める上で、調査研究機能が入るかどうかで人員規模も変わってくる。既に東北大学災害科学国際研究所もある中で、連携して取り組むのか、独立して行うのかという議論もある。【武田委員】

第4回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議の主な御意見

(4) ネットワークを運営する組織と課題について

② ネットワークを運営する組織の機能と課題

【実効ある官民連携のあり方】

- 官民連携で、組織・プラットフォームを作った時に、ステークホルダーとして参加いただける方々をどれだけ巻き込んでいけるかということが問われている。【阿部委員】
- 阪神も中越も公益法人になった組織が責任を持って行っている。規模の違いはあっても責任ある組織の有無では全然違う。【武田委員】
- 施設・アーカイブ・主体をコーディネートする力が求められる中、協議会といった協議機関のような形にはなりえないのではないか。シンボリックなものとして立ち上がらなければ、組織型のネットワークの軸にはなりえないと思われる。【武田委員】
- いつでも立ち寄れる拠点を考えた場合、協議会ではないと思われる。【小田委員】
- 資金的なものも含めて、人の手当にも深く官的なものが関わって来ない組織はあり得ないだろうと思う。【武田委員】
- 長期間伝え続けていくことに耐えうる仕組みと組織は必要であり、そのためには官が強く関わる必要がある。継続性について重々考えて欲しい。【宮原委員】

第4回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議の主な御意見

(4) ネットワークを運営する組織と課題について

② ネットワークを運営する組織の機能と課題

【実効ある官民連携のあり方】

○マネジメントをしていく能力と共に、強い想いを持っておられる方が当初は必要になると思う。

【阿部委員】

○現場との合意形成やキーマンをどう作るのかが重要である。【石塚委員】

○立ち上げ方法、最終的な組織の形態というのもあるが、どういう段階でやっていくのかということも項目として出していただく。【今村座長】

○復興期間10年間の残りが3年を切る中で、すぐに組織だけでも立ち上げないと間に合わないのではないか。2021年3月に向け、立ち上げていくべきである。【武田委員】

○組織論と施設は切り分けた話になる。【武田委員】

○組織の拠点となる場所はどこになるのか。石巻と仙台の両方の拠点はあってしかるべき。
【武田委員】

○場所が無い、ネットワークだけの組織は、近未来はともかく、現状はイメージしにくい。
【太田委員】